

## ナメクジ類 (チャコウラナメクジ、ノハラナメクジ)

### ○被害と発生生態

日中は石やマルチ等の下に潜み、主に夜間に活動する。湿ったところを好み、梅雨期や雨天時は昼間も活動するが高温・乾燥に弱く、真夏に出没することは少ない。雑食性であり、新鮮な植物だけでなく、落ち葉や動物質も食べる。被害を受けた果実や葉には穴があいたり、表面を削り取ったような傷ができる。歩行跡には粘液が付着し、商品価値が低下する。

チャコウラナメクジは体長 50 mm 程度。体色は淡褐色で背面に 2～3 本の縦縞がある。1950 年頃に侵入した外来種で、山口県では最も普通に見られる。秋 (9～10 月) に性成熟し、11 月から 4 月にかけて地中や石等の下に数個から 20 個をまとめて産卵する。1 個体の総産卵数は約 300 個だが、そのうちふ化するのは 100 個体程度である。産卵を終えた成体は 6 月には死亡する。

ノハラナメクジは体長 20 mm 程度。体色は黒～暗紫色で模様はない。外来種であるが、日本各地に広く分布し、山口県でも普通に見られる。産卵は春と秋の 2 回である。

### ○防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・発生源となる植物の残渣を適正に処分する。
- ・ナメクジ類の隠れ場所となるので、使用済みマルチ等の資材を処分する。

#### (イ) 薬剤防除

- ・燐酸第二鉄剤、メタアルデヒド剤、メソミル剤、カルタップ剤、銅水和剤等を用いて防除する。薬剤散布後も発生が続く場合は、2 週間間隔で再度防除する。
- ・防除適期は、イチゴでは苗の定植後で、産卵前の 10～11 月、その他の作物では 6～7 月と 10～11 月である。



チャコウラナメクジ



ノハラナメクジ



ナメクジ類の  
卵塊 (約 3 mm)



アスパラガスの被害  
(ノハラナメクジ)